



# あなたも始めるフェアトレード 自主活動

実施日:2021年7月17日

実施方法:Zoomオンライン

リーダー:医学部 保健学科 検査技術科学専攻3年 工藤 由瑛



## ①概要

フェアトレードとは直訳すると「公平・公正な貿易」のことである。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」のことを指す。つまりフェアトレードは生産者と消費者を繋ぎ、世界全体で持続可能な社会を目指していくものである(参考: [フェアトレードジャパンのHP](#) 3分で分かるフェアトレード)。近年SDGsに対する関心が高まる中、群馬県ではSDGsの全項目と親和性の高いフェアトレードを扱っている店や団体が少ない事を知り、この現状に危機感を感じて企画した。今回は参加者にフェアトレードについて知つてもらうだけでなく、自らの意思で主体的にフェアトレードに関心をもつてもらうことを目的として行った。イベント当日は、Zoomオンラインで開催し、情報学部1名、医学部医学科1名、保健学科6名の計8名が参加した。

### (事前準備)

- ・他団体のフェアトレードオンラインイベントに参加した。
- ・SDGsやフェアトレードの関連について事前調査を行った。
- ・事前・事後アンケートを作成し、参加者のフェアトレードに対する意識の変化を確認できるようにした。
- ・広報ポスター(図1)を作成、参加の呼びかけをSNS、メール、群大LMS(Moodle)フォーラム等で行った。



図1 広報ポスター

## ②内容

### 1. フェアトレードクイズ

フェアトレードに関する問題をクイズ形式で6問提示した(図2)。

参加者にとって新しい知識が多く、フェアトレードへの関心を高めるきっかけになった。



図2 フェアトレードクイズ

### 2. フェアトレードの実態を動画で紹介

私達の日常にあるバナナや服がなぜこんなに安いのか、その裏で生産者がどんな生活をしているかを動画で参加者に伝えた(図3)。その中で国際フェアトレード認証やフェアトレードタウン、フェアトレード・プレミアムなどあまり一般的に知らない内容を取り扱った。

Youtube[甘いバナナの真実]

<https://www.youtube.com/watch?v=OdUBcxSLVMo> (参照日: 2021年7月17日)

Youtube[ザ・トゥルー・コスト～ファストファッション 真の代償～]

<https://www.youtube.com/watch?v=tR5giBWTPX8> (参照日: 2021年7月17日)



図3 フェアトレード紹介動画

### 3. 体験型ワークショップ

SDGsとフェアトレードに関する問題について、参加者同士で議論しながら、解決策を様々な視点から模索した(図4)。フェアトレード認証を利用した環境に配慮した農作についてや、社会問題解決を目指すフェアトレードに積極的に参加する動きなど、調べたことや自分の考えはGoogleスライドにまとめ、最後に全員で共有した。



図4 ワークショップの様子

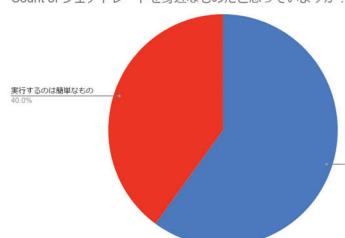
## ③結果

(参加者にはイベント参加前と参加後でアンケートを実施し、フェアトレードに対しての意識がどのように変化したか調査した)

Q. フェアトレードにどのように関わっていくのが良いと思いますか?(図5)

- ・少しの「知ろう」という気持ちから関われると思う。(情報学部1年)
- ・もっと勉強が必要です。ですが、普段の生活から「なんで海外から輸入されたこの食材はこんなに価格が低いのか」については考えるようになると思います。(医学部2年)

Count of フェアトレードを身近なものだと思っていますか?



Count of フェアトレードはどの位身近なものになりましたか?

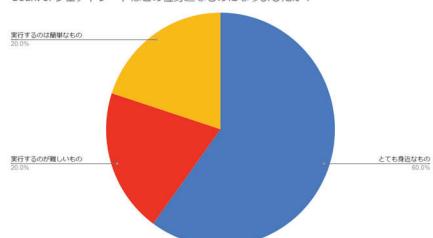


図5 事前事後アンケートの結果より

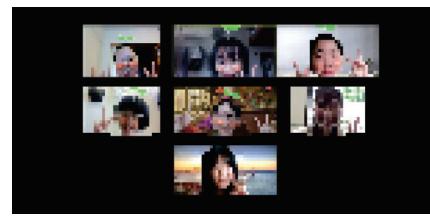


図6 集合写真

## ④まとめ

本企画はフェアトレードに関心を持つ「きっかけ」をつくるものであった。上記の結果に示すようにフェアトレードに対して難しい印象を抱いていた参加者がフェアトレードを身近なものに感じたり、フェアトレードを知りたいと思うようになった。特にフェアトレードに関する問題について解決策を議論する場面では、日常の中で実現可能な新しい考え方や、お互いに足りなかった視点、意見を交えることができた。この企画を考えるにあたって、わかりやすく伝えるために我々自身もフェアトレードを深く理解し、この取り組みに賛同することが出来た。これからもフェアトレードという選択肢があることを沢山の人々に伝えたい。今回は参加型のイベントを目指して企画を行い、自分の意見を他者に伝えることで参加者が得られるものが多くなったと考える。反省点としては、十分な人数が集まらなかったことが挙げられる。参加者に参加したいと思わせるようなPRが必要であると感じた。